



Embassy
of the Republic of Poland
in Tokyo



2020年9月11日

ニュースリリース

2020年——ポーランド物理年に制定

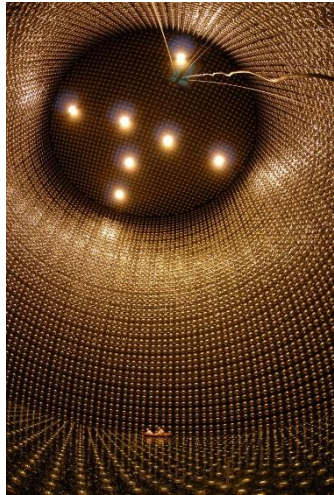
ポーランドの学術は、この国で生まれた研究者の科学分野における優れた業績によって、昔から、そして現在も有名です——物理もその一つです。その証左として常に挙げられるのは、1903年にポーランドの傑出した科学者マリア・キュリー＝スクウォドフスカが、放射能現象の研究によってノーベル物理学賞を受賞したことです。ノーベル賞を2度にわたって授けられたこの女性（彼女はポロニウムとラジウムの発見により、1911年に化学賞を得ています）は、今年が設立100周年にあたる、ポーランド物理学会の名誉会員でした。学会設立の区切りのよい記念年が現に祝賀されていることにちなみ、ポーランド上院は2020年をポーランド物理年にすると宣言しました。これは、ポーランド人物理学者たち——その数多くは、日本の研究機関や日本人物理学者との協力にもとても幅広い豊富な経験を有しています——の人物と業績を紹介するよい機会です。

2つのノーベル賞を受賞したマリア・キュリー＝スクウォドフスカは、永遠にポーランド学術の象徴であり続けるでしょう。そして、彼女の才能と業績に対する国際的な評価の証ともなっているのは、彼女がソルボンヌで教授の地位を手に入れた、世界最初の女性であり、パリのパンテオンに埋葬された最初の女性でもあったという事実です。しかし、後続する世代のポーランド人物理学者のなかにも、傑出した人物はたくさんいます——マリウシュ・ダニシュとイェジ・プニェフスキなど、多くの学者が幾度も、ノーベル物理学賞候補に挙げられています。

ポーランドの物理学者は、たくさんの重要で画期的な発見——特にニュートリノ振動、ヒッグス粒子と重力波——の共同研究者でした。これらの業績に対して、近年、ポーランド出身の科学者が、先ごろ設立されたばかりの権威ある「ブレイクスルー賞」を3回受賞しています。また、世界最大の研究機関である欧州原子核研究機構(CERN)には、70名以上のポーランド出身の物理学者が勤務し、さらに200名——主に、エンジニアと学者——が、同機構で行われている、ポーランド人研究者が著者または共著者として発表される、研究活動に常時協力しています。CERNに勤務するポーランド人物理学者たちの確固たる地位の証左は、例えば、2013–2015年に、クラクフのポーランド科学アカデミー核物理学研究所のアグニェシュカ・ザレフスカ教授がCERN評議会会長を務めていたことです。彼女は、女性で初めてまた東ヨーロッパ代表として初めて、この職を果たしました。もう一人の、まだ年齢が若いにもかかわらず、「21世紀のマリア・キュリー＝スクウォドフスカ」と呼ばれている、傑出したポー

ランド人物理学者は、ペロブスカイト結晶を用いた次世代太陽電池の画期的製造方法を開発した、オルガ・マリンケヴィチです。若きポーランド人学者によって発見されたこの方法は、ただちに、ポーランドだけでなく世界における、エネルギー分野における最も革新的な試みの一つと認められ、その発明には日本の投資家も興味を示しました。そのおかげで、オルガ・マリンケヴィチによって設立されたサウレ・テクノロジーズ社は、ペロブスカイトの商業化研究を前進させることができました。「21世紀のマリア・キュリー＝スクウォドフスカ」の発見には、さまざまな日本の研究機関(日本宇宙研究機構〔JAXA〕など)が関心を示し、サウレ・テクノロジーズ社はそれらとの協力を推し進めています。

ポーランドの物理学者 30 名のグループ (ワルシャワ工科大学、ポーランド科学アカデミー〔PAN〕原子核物理学研究所、高山冶金学大学〔AGH〕、ヤギェロン大学など)にとっても、日本側パートナーとの長年にわたる協力関係は誇りです。彼らは、すでに多年にわたり、ノーベル賞受賞者の東京大学・梶田隆章氏が日本側リーダーを務める、ハイパー・カミオカンデ (Hyper-K) 計画に関わる研究チームと協力し、同計画の一環として、世界最大のニュートリノ検出器が建設される予定です。ニュートリノ (T2K、SK、CTA) 研究分野におけるそれ以前の諸実験を実施するにあたって、日本と長年協力してきた経験により、ポーランド人学者たちは、国際的な研究グループで重責を担っており、彼らの上記新計画への参加は、宇宙の特性をめぐる世界的研究へのとても重要な貢献を成すものです。



物理学分野におけるポーランド・日本協力のなかでも、重要な事例の一つは、数年前から実施されている、第4世代原子炉に属する実験用原子炉 (HTGR) のポーランドへの共同建設プロジェクトです。日本側の協力は日本原子力機関 (JAEA) によって、ポーランド側はアンジェイ・ソウタン記念国立原子核研究センターによって実施されています。傑出したポーランド人核物理学者であり、ニュートロンの人工的製造研究の先駆者であったソルタンは、一連の傑出したポーランド人物理学者たちのなかでも、記憶に値する名前の一つです。

ポーランド人物理学者たちは、世界中のさまざまな場所で行われている研究に貢献しています——日本も例外ではなく、日本の大学や学術機関 (理研など) に勤務しています。私たちは、物理学分野におけるポーランド・日本協力によって、両国に多くの傑出した科学者が生まれ、彼らの名が国際協力の実施によって世界科学史のページに刻まれる日を楽しみにしています。

分析：駐日ポーランド共和国大使館

駐日ポーランド共和国大使館

<https://www.gov.pl/web/japonia/ambasada-tokio.amb.sekretariat@msz.gov.pl>

Twitter: @PLinTokyo

Facebook: <https://www.facebook.com/Ambasada-RP-w-Tokio>

ポーランド広報文化センター

<https://instytutpolski.pl/tokyo>
tokio@instytutpolski.org

Twitter: @PLInst_Tokyo

Facebook: <https://www.facebook.com/InstytutPolskiTokio/>